ジェンダー教育プログラム

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょうか。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは? (Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会科学研究センターを開設し、毎年およそ50科目、延べ4000名の学生・院生みなさんにジェンダー、セクシュアリティに関わるさまざまな授業を提供しています。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指すゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいくカリキュラムがつけられています。

キャリアデザイン

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずで。

多様なセクシュアリティ

ジェンダーとセクシュアリティを切り離して考えることはできません。人間の性のあり方とその多様性を知ることは、自分自身の生き方を考え、周りの人の生き方を尊重するためにも不可欠です。

新しい社会科学

それぞれの専門的知見を深め研究を進展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。

性について、
これほど学問的に
深く考えたことはなかった。
新しい思考法を
身につけられた気がする。

大学の中にも
「男は」「女は」という
言説があふれている。
たくさんの学生、
特に男子学生に、
受けてほしいと
思った。

自分の中の偏見や先入観の存在に
気づくことができた。
ちまたにあふれる性に関する情報を
批判的に見ることができるようになった。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。
学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室
第2講義棟1階西側「いまここ」JHP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/>

■ハラスメント相談室 第1講義棟1階東側
<http://www.hit-u.ac.jp/harassment/soudan.html>

■キャリア支援室

本館1階
http://www.hit-u.ac.jp/shushoku/career_support/top.html

ハラスメント防止ガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/harassment/pdf/guideline.pdf>
ハラスメントとは、人間としての尊厳を侵害する行為であり、人に対する思いやりと敬意を欠いた行為です。一橋大学は、すべての学生と教職員の人権が尊重され、ハラスメントを受けることなく、本学において修学・教育・研究し、就労することができる環境を享受できるよう努め、ガイドラインを定めています。

学部 基幹科目群

ヒューマンセクソロジー

【共通／春夏・火2】

水野哲夫
男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性(Sexuality)の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感症などの性の病理を学び直すとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。

ジェンダーと人権

【共通／秋冬・月3】

辻村みよ子・谷田川知恵
社会や法におけるジェンダー(性差)、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点(「ジェンダー人権論」)からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画(ジェンダー平等)の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・学術分野等の領域ごとに具体的に検討していきます。

ジェンダーと社会

【社・基礎／春・火金3】

佐藤文香
ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマごとにジェンダー視角から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。

ジェンダー論

【社・発展※／秋・火金3】

佐藤文香
ケア・国家・軍隊・ポルノグラフィ・法など、ジェンダー関係の再編をめぐるフェミニズムの中に蓄積されてきたいくつかの争点を、理論的立場の相違として考察していきます。

家族社会学／地球市民とジェンダー

【社・発展※／冬・集中2】

上野千鶴子
家族は人類学的には無定義概念です。わたしたちが知っている今日の家族は「近代家族」と呼ばれるものですが、ポスト近代の今日は「近代家族」の解体期にあります。家族はどこから来てどこへ行くのか? そのゆくえを探ります。

学部 連携科目群

全学共通教育科目

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
◎	共通	春夏・月3	現代思想	中井亜佐子
◎	共通	春夏・月3	地域文化論A／英語圏文化I	越智博美
◎	共通	春夏・月4	アジア共同体論(ワシントン財団寄附講義)	イ・ヨンスク
○	共通	春夏・火2	台湾の歴史と社会	洪郁如
○	共通	春夏・木2	人文学入門(歴史)	小岩・小泉・三原・中井
◎	共通	春夏・金4	国語	松原真
○	共通	春・月木1, 2	英語(リーディング・標準)II	越智博美
○	共通	夏・月木1, 2	英語(リーディング・発展)I	越智博美
○	共通	夏・月木4	教育と経済	松塚ゆかり
○	共通	秋冬・火3	アラビア語圏地域文化論	勝畑冬実
○	共通	秋冬・水2	英語圏文学A／英文学講義I	町田みどり
◎	共通	秋冬・木4	教育と経済開発	松塚ゆかり
◎	共通	冬・集中1	古典講読入門(文学)E	井上閻從文
◎	共通	冬・集中1	英語圏文学E	三原芳秋

学部 連携科目群

学 部

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
★	法・発展※	春夏・月3	交渉文化論B／交渉文化論特殊問題D	前田真理子
○	経・発展※	春夏・火金3	比較経済史	森宜人・友部謙一
★	社・導入	春夏・火4	社会研究入門ゼミナール(佐藤文香)	佐藤文香
○	社・発展※	春・月木1	社会開発論A	上田元
○	社・基礎	春・月木2	国際社会学I A	森千香子
○	経・導入	春・月木3	経済史入門	友部謙一
○	経・導入	春・月木3	経済思想入門	後藤玲子
○	社・基礎	春・月木3	スポーツ社会学の基礎	鈴木・坂・尾崎・坂上
○	社・発展※	春・月木3	比較国際教育学／グローバル化と教育	太田美幸
○	経・発展※	春・月木4	比較経済システム論	後藤玲子
○	商・発展	春・火金1	消費文化論	町田みどり
○	社・基礎	春・火金1	生活保障論	猪飼周平
○	社・発展※	春・火金2	Media Research Methods	ジョナサン・ルイス
◎	社・基礎	春・火金3	雇用関係総論	西野史子
○	経・発展※	夏・月木1	公共経済学II	竹内幹
◎	社・発展※	夏・月木1	アジア社会史特論A	加藤圭木
○	社・導入	夏・月木2	社会学概論／社会学(社)	多田治
○	社・基礎	夏・月木2	ヨーロッパ社会史総論B	阪西紀子
○	社・基礎	夏・月木3	社会思想A	森村敏己
○	社・発展※	夏・月木3	国際開発論B／地理学(法・社)	児玉谷史朗
◎	社・基礎	夏・月木4	Cultural Anthropology	田口陽子
○	商・基礎	夏・火金1	原価計算	挽文子
○	社・基礎	夏・火金3	社会政策総論	白瀬由美香
○	社・発展	夏・火金3	スポーツ政策論	尾崎正峰
○	社・基礎	夏・集中3	政治学／政治学(経・社)	中北浩爾
◎	社・導入	秋冬・水2	社会研究入門ゼミナール(加藤圭木)	加藤圭木
★	社・発展※	秋冬・木4	社会文化論原典講読D	久保哲司
◎	社・基礎	秋冬・金3	社会と文化A	井川ちとせ
★	法・発展	秋・月木2	ジェンダーと法	相澤美智子
○	社・基礎	秋・月木2	地域研究A	上田元
○	社・基礎	秋・月木4	人間環境論	林大樹
○	社・基礎	秋・火金2	教育の歴史A／教育の歴史A(教職)	太田美幸
○	社・発展※	秋・火金2	Online Media Studies	ジョナサン・ルイス
○	社・導入	秋・火金3	社会科学概論II	西野史子
○	社・基礎	秋・火金3	ことばと社会	五十嵐陽介
○	商・基礎	冬・月木1	管理会計	挽文子
○	社・基礎	冬・月木2	社会学理論／社会学(社)	多田治
◎	社・発展※	冬・月木4	Anthropology, Politics, and Development	田口陽子
○	社・発展※	冬・月木4	コミュニティ政策論	林大樹
★	社・発展※	冬・火金3	アメリカ社会史特論A	貴堂嘉之
◎	社・発展※	冬・集中1	デジタルメディア実践II	坂上香

大学院

◆基幹科目◆

社会科学のなかのジェンダー

【社／春夏・金2】

佐藤文香・貴堂嘉之
既存の社会科学/人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させて、ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新たな可能性を切り拓くことを目的としたオムニバス形式の講義です。

社会学／平和とジェンダー

【社／秋冬・火4】

佐藤文香
フェミニスト国際関係論の洋書講読を通じて、平和に対するアプローチの独自性やその課題について議論していきます。

◆連携科目◆

頻度	研究科	曜日・時限	講義名	担当者
○	社	春夏・月4	グローバル化と移動社会／社会学	多田治
○	社	春夏・火3	アメリカ研究	貴堂嘉之
◎	社	春夏・火3	文化生成研究	洪郁如
◎	社	春夏・水1	トラウマと地球社会	宮地尚子
○	経管	春夏・水2	商業文化特論／英語圏言語文化特別研究E	越智博美
○	社	夏・木2	雇用政策	西野史子
★	法	秋冬・月3	Gender and International Relations	前田真理子
◎	言社	秋冬・月3	英語圏文学A	中井亜佐子
○	社	秋冬・月4	グローバル・メディア論	多田治
◎	言社	秋冬・火2	社会言語論B	イ・ヨンスク
◎	社	秋冬・火3	多文化社会の人間形成／教育の社会史	太田美幸
★	言社	秋冬・水5	現代思想B	田崎英明
○	社	秋冬・金2	社会科学の基礎I	中田康彦
◎	言社	冬・集中8	文献演習(英語)	井上閻從文

CGraSS公開レクチャー・シリーズ

ジェンダー研究の新しい方法を模索し、社会科学の手法との融合をいかにして果たすのか。社会学研究科内に設置されているジェンダー社会学研究センター(CGraSS)では、この課題にこたえるため、さまざまな研究領域の専門家のゲスト報告者を招いて、公開レクチャー・シリーズを展開しています。また、シンポジウムの共催や合同研究会などを行い、教員・院生の相互交流を奨励・推進しています。

【参考】2018年度のCGraSS公開レクチャー・シリーズ

「うろたえる男たち——女たちの告発に、私たちはいかに応えてきたか／応えるべきか」
2019年1月25日
講師：平山 亮さん(東京都健康長寿医療センター研究所 研究員)

「ジェンダー、人種、文化ナショナリズム——外国人の話す日本語におけるジェンダー表現をめぐる」
2019年1月9日
講師：鈴木聡子さん(マカレスター大学アジア言語文化学部 ドゥイット・ウォレス教授)

「ポストコロナル世界のイスラームと女性・ジェンダー」
2018年9月21日
講師：ザフラ・アリさん(ラトガース大学専任講師)

「感情を管理される日本軍兵士たち——軍事化されたマスキュリニティと戦争神経症」
2018年6月27日
講師：中村江里さん(独立行政法人日本学術振興会 特別研究員)

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

- ★：講義全体をジェンダーの視点から構成する
- ◎：ジェンダーを講義の一つの柱とする
- ：ジェンダーについて1, 2回取り上げる

※は学部・大学院共修。
委細は各授業のシラバスで確認してください。また履修登録の際には、学士課程ガイドブック(学部)／学生便覧(大学院)に従って下さい。